

## 令和7年度第1回 埼玉県スポーツ推進審議会議事録

1 日 時 令和7年12月24日（水）10:00～12:00

2 場 所 埼玉会館5B会議室（対面）及びオンライン（zoom）

### 3 出 席

(1) 出席委員（12名）

東山委員、工藤委員、白石委員、高橋委員、山田委員、太田委員、田川委員、石川委員、田中委員、安達委員、岩本委員、廣田委員

(2) 欠席委員（6名）

佐藤委員、今村委員、谷ヶ崎委員、松井委員、新井委員、小池委員

(3) 事務局

スポーツ振興課

### 4 議事・報告事項

ア 会長・副会長の選出

イ 埼玉県スポーツ推進計画の中間報告について

### 5 内 容

(1) 開会（傍聴者なし）

(2) 県民スポーツ文化局長挨拶

(3) 委員紹介

(4) 議事

ア 会長・副会長の選出

埼玉大学 教授 石川 泰成 委員を会長に選出

埼玉県スポーツ協会 業務執行理事 副会長 工藤 由起子 委員を副会長に選出

（白石委員と高橋委員を署名委員に指名）

(5) 報告事項

イ 埼玉県スポーツ推進計画の中間報告について

【事務局 資料に基づき説明】

(6) 質疑応答

- 東山委員  
指標1「週1回以上スポーツをする県民の割合」について。来年秋にはねんりんピックが開かれ、参加は延べ60万人規模と聞いている。かなり大きな動きになるが、この指標と関係してくる点はあるか。
- スポーツ振興課副課長  
現在、ねんりんピック開催の機運醸成のため、スポーツ振興課としてもお手伝いをしている。ねんりんピックは60歳以上の方のスポーツ・健康増進を目的とする厚労省所管の大会であり、高齢者のスポーツの機会の提供につながるものと考えている。そのため、所管課である福祉部のねんりんピック課と連携して取り組んでいるところである。
- 岩本委員  
ねんりんピックは福祉部の所管であるとのことであるが、スポーツ振興課としても機運醸成に協力し、高齢者がスポーツに興味を持てるよう取り組んでいただきたい。
- スポーツ振興課長  
所管は福祉部であるが、例えばお互いのイベントで相互にブース出展するなど、連携して機運醸成に努めている。ねんりんピックは来年11月開催であるので、来年度以降も同様に盛り上げてまいらる。
- 高橋委員  
皆さんご存じのとおり、今年11月に東京2025デフリンピックが開催された。埼玉県からも多くの選手が出場し、バレーボールの金メダルをはじめとして、多くのメダルを獲得された。聞こえない子供、聞こえにくい子供たちに関して、今後、これをモデルケースにして育てるような計画はあるのか。
- 事務局（スポーツ振興課主幹）  
資料10枚目に「スポーツ科学を活用したトップアスリート輩出事業」がある。このうち「プラチナエース」については、聴覚障害に限らず、障害のある方を対象として体験会・測定会に参加していただき、認定する。そして「プラチナアスリート」として、各競技団体に育成する事業である。今後も、デフアスリートも含めて、発掘・育成していきたいと考えている。
- 高橋委員  
埼玉県には大宮ろう学校と坂戸ろう学校とあるが、それだけではなく、普通の中学校や高校にも、聞こえない子供、聞こえにくい子供たちが通っている。スポーツについては、ろう学校の子供たちよりも、そうした普通校に通っている子供たちの方がレベルが高い。今回のデフリンピックでも、彼らのレベルの高さに非常に驚いた。

○ スポーツ振興課副課長

ご指摘の通常校在籍の難聴等の子どもたちについても、今年度のプラチナエース募集は小・中・高の校長会を通じて周知している。現在、校長会は動画配信形式なので、事業説明の動画と体験会・測定会の案内を、全校の校長に届けた。今後も周知を工夫し、発掘・育成に力を入れてまいる。

○ 石川委員

指標について、目標値と実績値とを見ると、おおむね順調に進んでいるように見える。残りの期間での達成に期待したい。そこで、いずれも重要な指標であるとは考えるが、中でも特に手厚く取り組むべきものがあるとなればどれか。

○ スポーツ振興課課長

とりわけ指標1「週1回以上スポーツをする県民の割合」については、県の最上位計画である埼玉県5か年計画でも重点指標としている。したがって、まずはこれを優先的に高める必要があるものと考えている。先ほど御説明した施策を着実に実施し、目標年度の令和9年度までに達成したいと考えている。

(7) 閉会

署名

署名 石川泰成

---

署名 白石三重子

---

署名 高橋勉

---